

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 57

啓示録において (6)

諸召会に語るその霊、ダビデのかぎを持つ者、勝利者と共に食事をする方

聖書：啓 3:7-22

I. キリストは啓示録第2章と第3章において、すべての召会に語るその霊です：

- A. 啓示録第2章と第3章において、それぞれの手紙の冒頭での、七つの召会に対する、無限の、命を解き放つ、七倍に強化された、霊なるキリストの語りかけは (2:1, 8, 12, 18. 3:1, 7, 14)、それぞれの手紙の終わりでの、七つの召会すべてに対する、七倍に強化された、すべてを含む、命を与える霊の普遍的な語りかけとなります (2:7, 11, 17, 29. 3:6, 13, 22)。
- B. こうして、語るキリストは語るその霊、すなわちすべての召会に語るその霊となります。キリストは特定の地方召会に語り、その霊は宇宙的なからだに語ります。
- C. これは、その霊が主であり、主がその霊であることを示しているだけでなく、また召会の墮落という暗やみの中では、その霊が極めて重要であることも強調しています。これは、第1章4節において七倍に強化された霊によって示されているようにです。
- D. 啓示録第2章と第3章における七つの手紙は、主イエスが語った言葉ですが、今日わたしたちがそれを読むとき、神の七つの霊がわたしたちに霊の中で神のエコノミーのためにそれらの言葉を語ります。それぞれの手紙の冒頭での主の言葉は、特定の地方召会に対してですが、いかなる時代の人々がそれを読んでも、それはすべての召会に対するその霊の語りかけとなります。
- E. その霊の語りかけは、常にわたしたちをキリストの注入に立ち返らせませす。その霊の語りかけはキリストの注入です——参照、II コリント 3:16-18：
 1. わたしたちは神の七つの霊が諸召会に語るのを聞くときはいつでも、直ちに尊く、甘く、愛すべき伝達の下におり、またわたしたちを変化させ、造り変え、適切な材料とし、神の建造の中へと建造する注入の下にいます。
 2. 火の池に行かなければならないものは何であれ、七つのともし火 (啓 4:5) によって焼き尽くされなければなりません。そして今、わたしたちは七つの目 (5:6) の下にいて、キリストであるすべてを注入されています。それは、わたしたちが新エルサレム的一部分となるためです。
- F. 諸召会の中にいる信者たちはその霊の語りかけを聞く地位にあり、こうして容易に聞く耳を持つことができますが、彼らのすべてが彼の語りかけに緊密に従うわけはありません。このゆえに、勝利者たちに対する召しがあるのです。
- G. その霊が諸召会に言われることを聞く耳のある者たちは、聞くべきであり、聞く者たちは勝利者となります：

1. 主は常にわたしたちの耳を開いて、彼の声を聞かせることを願っています。それは、わたしたちが彼のエコノミーにしたがって物事を見るためです——ヨブ 33:14-16. イザヤ 50:4-5. 出 21:6。
 2. 鈍い耳は割礼される必要があります——エレミヤ 6:10. 使徒 7:51。
 3. 罪人の耳は贖いの血で清められ、その霊で油塗られる必要があります——レビ 14:14, 17, 28。
 4. 祭司として主に仕えるために、わたしたちの耳は贖いの血で清められる必要があります——出 29:20. レビ 8:23-24。
 5. その霊が諸召会に語っているとき、わたしたちはみな耳が開かれ、割礼され、清められ、油塗られて、その霊の語りかけを聞く必要があります。
- H. その霊の語りかけは召会歴史における七種類の召会に関してです。それは初期の召会（エペソ）、苦難の召会（スミルナ）、この世的な召会（ペルガモ）、背教の召会（テアテラ）、改革の召会（サルデス）、回復の召会（ヒラデルヒヤ）、回復し墮落した召会（ラオデキヤ）です：
1. 後半の四種類の召会はすべて主が再来するまで残ります。
 2. 残念なことに、ただ回復の召会しか神の永遠の定められた御旨を成就することができません。ただ回復の召会だけが主の追い求めているものです。わたしたちは主の選択を受け入れなければなりません。
 3. ラオデキヤは変質したヒラデルヒヤであり、そこにはなまぬるさと霊的な高ぶりがあります——啓 3:14-17：
 - a. ラオデキヤは、すべてを知っていても実際において何についても熱くないことを意味します。それは名前においてすべてを持っていますが、どんなものに対してもその命を犠牲にすることはできません。それは以前の栄光を覚えていますが、現在の神の御前での状態を忘れます。
 - b. わたしたちはヒラデルヒヤの方法で継続したいなら、神の御前でへりくだることを覚えておかなければなりません——参照、7-22 節. イザヤ 57:15. 66:1-2。
- II. キリストは回復の召会（ヒラデルヒヤ）において、その肩に神の家（神の王国を建造するためのダビデの家によって予表されている）の（宝庫の）かぎが置かれる方です——22:22. 啓3:7：
- A. 回復の召会にとって、キリストはダビデのかぎ、すなわち王国のかぎを持つ者であり、開いたり閉じたりする権威を持っています。主は一つ思いにある回復の召会に、だれも閉じることのできない開かれた門を与えられました——8 節. 参照、詩第 133 篇。
 - B. ダビデのかぎはわたしたちのために門を開いて、わたしたちが白い石へと造り変えられ、神の御名、新エルサレムの名、主の新しい御名をもった柱として神の家に建造されるようにします——啓 2:17. 3:12：
 1. わたしたちが神の中へと建造され、新エルサレムの構成要素となり、新しいキリストの一部分となることは人間的には不可能ですが、わたしたちの内側の命の霊の法則は不可能を対処する要素を含んでいます——ローマ 8:2. 啓 3:7-13. 参照、創 28:12-19. ヨハネ 1:51。

2. キリストは神の宝庫の門を管理するかぎを持っています。神の宝庫の中にはキリストにある神の豊富があり、わたしたちに享受させます。わたしたちは、彼がわたしたちに対するそれらの豊富を開けたり閉じたりすることを経験してきました——エペソ 4:30. I テサロニケ 5:17. I ヨハネ 1:7, 9:

- a. わたしたちは彼の豊富を宝として享受するために、命の感覚にしたがって主との接触の中にとどまり、霊の中で貧しくなり、心において純粋である必要があります——II コリント 2:10. ローマ 8:6, 10:12-13. コロサイ 3:16. マタイ 5:3, 8.
- b. わたしたちは彼の豊富を宝として享受するために、自己を否み、十字架を負い、魂の命を失うというかぎを行使することを学ぶ必要があります。「セブナ」であるわたしたちはみな、解任させられ、キリストによって置き換えられるべきです。それは、キリストがわたしたちの中で、またわたしたちにとってすべてとなり、わたしたちを通して、またわたしたちのためにすべてのことを行なうためです——イザヤ 22:15-19. マタイ 16:24-25。

III. キリストは回復し墮落した召会において、勝利者たちと食事をし、彼が勝利を得て、彼の父と共に彼の座に着いたのと同じように、勝利者たちを彼と共に彼の座に着かせる方として見られます——啓3:20-21:

A. 「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開くなら、わたしは彼の所に入って行き、彼と共に食事をし、彼はわたしと共に食事をするであろう」——20 節:

- 1. この戸は個人の心の戸ではなく、召会の戸です。召会のかしらである主は、墮落した召会の外に立ち、その戸をたたいておられます。
- 2. その戸は召会の戸ですが、その戸は個人の信者によって開けられます。ラオデキヤに在る召会には知識はありますが、主の臨在がありません。
- 3. 主の目に回復し墮落した召会は、(1) 悩んでいる。なぜなら、召会は教理のむなしい知識において豊かであると誇っていますが、実はキリストの豊かさの経験に全く貧しいからです。(2) みじめである。なぜなら、召会は裸で、盲目で、恥と暗やみに満ちているからです。(3) 貧しい。なぜなら、召会はキリストの経験に貧しく、神のエコノミーの霊的实际に貧しいからです。(4) 盲目である。なぜなら、召会は真の霊的事柄における真の霊的洞察力に不足しているからです。(5) 裸である。なぜなら、召会はキリストによって生きず、主観的な義としての、日ごとの歩みにおける第二の衣としてのキリストを生きないからです——15-17 節. 参照、詩 45:1, 9-14。
- 4. 主は全召会を取り扱っておられますが、主の取り扱いを受け入れるのは、個人的で主観的な事柄でなければなりません。
- 5. 食事をするとは一品料理を食べることではなく、食事の豊かな宴席にあずかることです。これは、イスラエルの子たちがカナンの良き地の豊かな産物を食べることの予表の成就を暗示しているのでしょう——ヨシュア 5:10-12。
- 6. わたしたちはキリストを命の木として、隠されたマナとして、宴席として享受することを通して、構成において彼とミングリングされて一つの実体となり、新エルサレムとして彼を表現します——啓 2:7, 17. 3:20。

- B. 「勝利を得る者を、わたしと共にわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父と共に彼の御座に着いたのと同じである」——21 節：
1. 主と共に彼の御座に着くことは、勝利者に対する賞となります。それは、勝利者が来たるべき千年王国で主の権威にあずかり、キリストの共同の王となって、全地を支配するためです——ルカ 19:11-27. マタイ 25:21, 23。
 2. 神の意図は、ご自身を人の中へと造り込み、人の上で働き、人が御座に着くことができるようにすることです。神の願いは、わたしたちを御座のある民とすることです——啓 2:26-27. 3:21. 22:5. 参照、イザヤ 14:12-14。
 3. 主イエスは十字架、復活、昇天を通して、御座にもたらされました。イエスという名の実際の人々が御座に着いています（エゼキエル 1:26）。今や、天と地の主、宇宙の主は今日、一人の人です。こういうわけで、わたしたちは「イエスは主である」と宣言し、またこういうわけで「おお、主イエスよ」と呼ぶのです。
 4. 主イエスは御座への道を開かれました。彼は開拓者、先駆者であって（ヘブル 6:20. 2:6-9）、御座への道を切り開かれました。彼は、わたしたちが後に続くために、道を切り開いて、先導しておられます（10-12 節）。
 5. 今や、わたしたちは御座へと行進しています。なぜなら、神はわたしたちを栄光へともたらそうと、また御座に着かせようとしておられるからです。神は人を通してご自身を現すことを願われ、人を通して、王として支配し、治めることを願っておられます。神の意図は、サタンを投げ落とし、サタンによってとりこされた多くの人を贖い、彼らを神の御座にもたらすことです。
 6. わたしたちは召されて神の子たちとなり、王となるよう運命づけられています。神にわたしたちの中で、またわたしたちの上で働いていただき、わたしたちを王職のために資格づけていただく必要があります——ローマ 5:17, 21. 参照、エゼキエル 1:22, 26. マタイ 8:9。